

よみがえる! とみおか

富岡市内出土品展

2017 2/3_金 ~ 12_日

入場無料
※6日_日は休館日

AM9:30~PM5:00

富岡市立美術博物館 市民ギャラリー 富岡市黒川 もみじ平総合公園内

遺跡説明会

5日_日・12日_日 PM2:00~(創作室)

主催/富岡市教育委員会 お問い合わせ/文化財保護課 TEL 0274-62-1511(内線1384)

し せききゆうとみおかせい し じょう 史跡旧富岡製糸場

今回の展示は、これまでの調査で見つかった出土品をテーマに関連付けて展示する第1部、最新の出土品を展示する第2部で構成しました。

■第1部「モノで見る『富岡日記』の世界」

和田（旧姓横田）英によって書かれた『富岡日記』は、彼女が明治6年から1年余りの間、工女として富岡製糸場で働いた時の回想録です。ここには官営当初期の富岡製糸場の様子が鮮やかに描かれています。これまで継続的に行ってきた発掘調査では、操業開始から停止に至るまでの様々な遺物が出土しています。その中には英たち工女が見たであろう、明治時代初め頃の遺物も含まれています。

今回はこうした出土遺物を『富岡日記』の内容に関連付けて展示しました。煉瓦造りの建物、服装や食事などの生活の様子、繰糸に関わる道具など、実際の出土遺物から明治時代の富岡製糸場の姿に思いを馳せてみて下さい。



多くの工女が見た、東置繭所のアーチ

■第2部「平成28年度最新発掘調査情報」

平成28年度の発掘調査は、今後の保存整備の資料を得る目的で、社宅85・86周辺、副蚕場^{ふくさんば}周辺などで行っています。また、総合防災配管計画に関する発掘調査や、乾燥場・繭扱場^{まゆあつかいば}のほか、国宝西置繭所の保存修理に関わる調査を行っています。

また、これまでの調査の成果を取りまとめるため、整理作業も継続して実施しています。

【社宅85・86周辺】 2棟は昭和15年に建てられた社宅です。調査では両建物の基礎の状況や、周辺の土地利用の様子を確認しました。庭先に掘られた穴

からは、昭和30年代頃に捨てられた様々な生活道具などが出土しました。



捨てられた生活道具

【副蚕倉庫・副蚕場周辺】 かつては繰糸の第二工場として建てられた施設で、その周囲を調査しています。コンクリート敷きなどが見つかりました。

【総合防災配管計画関係】 調査は製糸場内の全域で行っており、様々な材質の上・下水の配管や、地面に掘られた穴の痕跡などを確認しました。

【乾燥場・繭扱場】 繭を荷受けし、乾燥するための施設です。操業停止時に至るまで、いくつかの増改築がありますが、その変遷の把握を目指して調査を実施しています。現在のコンクリート土間の下で、古い段階のコンクリート土間を検出しました。

【国宝西置繭所】 木骨煉瓦造で、2階建ての繭倉庫です。1階床下の地面では、建物を建てる時の造成の跡を確認しています。



発掘調査が進む西置繭所の内部

【整理作業】 これまで実施した発掘調査の記録類や出土遺物の整理を継続しています。平成26年度に調査した、貯水施設「水溜^{すいりゅう}」の姿が明らかになってきました。

上高瀬境谷戸遺跡

鐮川右岸河岸段丘上、中高瀬観音山遺跡や北山茶白山古墳がある丘陵の北に広がる通称「高瀬たんぼ」の北側に位置しています。平成28年3月から5月にかけて発掘調査を実施し、古墳時代前期から奈良時代の集落跡などが発見されました。

■古墳時代

約1600年前から1400年前にかけての、古墳時代前期から後期の住居跡が26軒発見されました。

古墳時代前期の住居跡からは東海地方の影響を受けた土器が、また、古墳時代後期の住居跡からは、甕かめや甑こしき、高坏たかつまなどが出土しました。近くに古墳群があり、それらの古墳を作った人々の集落ではないかと考えています。



古墳時代後期の住居跡

■奈良時代

約1300年前の住居跡8軒と掘立柱建物跡1棟が発見されました。住居跡からは須恵器すえきや土師器はじきが多く出土しました。また、掘立柱建物跡は柱穴が約1.1m×0.8mと大きく、軸が真北を向いていることから、公的な建物であった可能性が高いと考えています。



大きな掘立柱建物跡

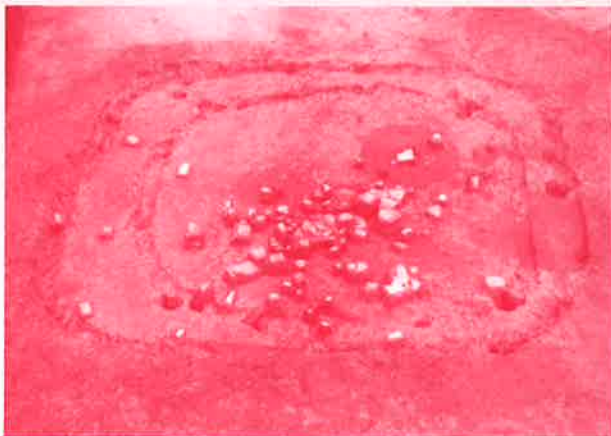
大牛下原遺跡(まつぎ 松義西部地区遺跡群)

富岡市と安中市の間の台地上、妙義町大牛に位置しています。県営農地総合整備事業（松義西部地区）に伴い、平成25年度から26年度にかけて発掘調査を実施し、縄文時代、弥生時代の集落跡などが発見されました。

■縄文時代

約6500年前から4500年前にかけて、縄文時代前期中葉から中期後葉と考えられる住居跡が28軒発見されました。前期の住居跡が主に遺跡の東側で、中期の住居跡が遺跡の中央から西側にかけて発見されています。2、3軒を単位とした小規模な集落が、台地上で数世代にわたって形成されていたものと考えられます。

住居跡から出土した土器は小さな破片が多く、土器の中に多量の繊維を含んだものも出土しています。



縄文時代前期の住居跡

土坑については、約7000年前から4000年前にかけて、縄文時代早期後半から後期初頭と考えられる時期のものが発見されています。

出土した土器は比較的大きな破片が多く、特に31号土坑からは早期後半に属するとみられる深鉢が出土しました。遺構から土器が出土したことで、松義台地上に、この時期に生活を営んでいた人々が確実に存在したことが明らかになりました。

遺跡の西側で確認された83～86・92・93号土坑からは、約4500年前から4000年前の中期後葉から後期初頭と考えられる土器が大量に出土しています。

これらの土坑は、弧状に並び、土坑の底面に用途不明の柱穴はしらあなが存在しています。



縄文時代中期後葉から後期初頭の土坑群

■弥生時代

約2000年前の弥生時代中期中葉と考えられる土坑1基が発見され、土器の破片が出土しました。

なかざとしもはらいせき 中里下原遺跡(松義中部地区遺跡群)

富岡市と安中市の間の台地上、妙義町中里に位置

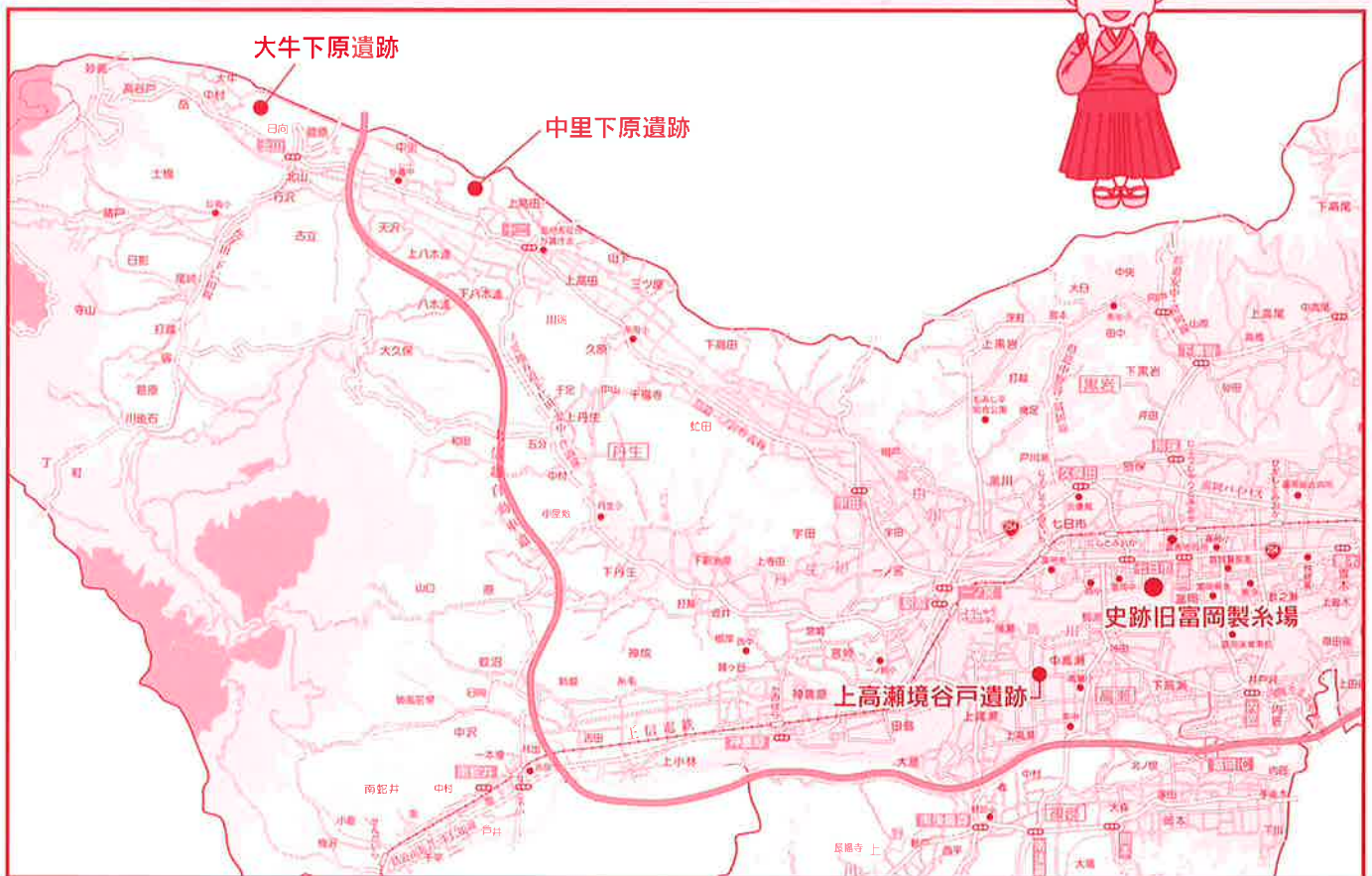
しています。県営農地総合整備事業(松義中部地区)に伴い、平成23年度から24年度にかけて、発掘調査を実施しました。

中里下原遺跡では縄文時代、奈良・平安時代の大集落などが発見されました。

■縄文時代

約5000年前から3000年前にかけての、縄文時代中期から後期の環状集落(かんじょうしゅうらく)が発見されました。この環状集落は、2,000年間という長い期間にわたって形成されています。また、これまで発見されている縄文時代中期の環状集落では、住居跡によって形作られる環の真ん中に当たる部分にお墓のための穴(ほこう)(墓坑)が集まって発見されることが多かったのに対し、中里下原遺跡では環の外側に当たる部分に墓坑群が設けられているのが特徴で、この墓坑からも大量の土器が出土しています。今回は新たに整理した資料のなかから、特に優れた縄文土器を中心に展示しています。

遺跡の位置



富岡市教育委員会 文化財保護課 TEL 0274-62-1511(内線1384)